

鶴見川流域・印旛沼流域等 における取組について

鶴見川流域の水循環系構築に向けた下水道の取組の課題と対応

特徴・課題点(第2回流域管理小委員会で提示)

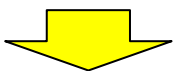
- 1 鶴見川水マスタープランの策定後、同マスタープランに基づくアクションプランの策定、その実施を、いかに地域の理解を得ながら進めていくかが課題
- 2 下水道に関しては、各都市で汚水対策(高度処理含む)、雨水対策(貯留浸透含む)、処理水の活用、水辺の再生等、多様な取り組みを進めているものの、流域住民等への情報発信が不十分で、理解が十分得られていない
- 3 また、流域間での下水道部局や関連部局、地域住民等との連携・交流に欠ける面があり、単発的な取り組みとなっている面が見られる

下水道に関する取組の第1ステップ:関係者からなる検討会の設置

・下水道管理者(県、関連市)、河川管理者、流総計画担当者、国(河川部、建政部)から構成する検討会を立ち上げ。



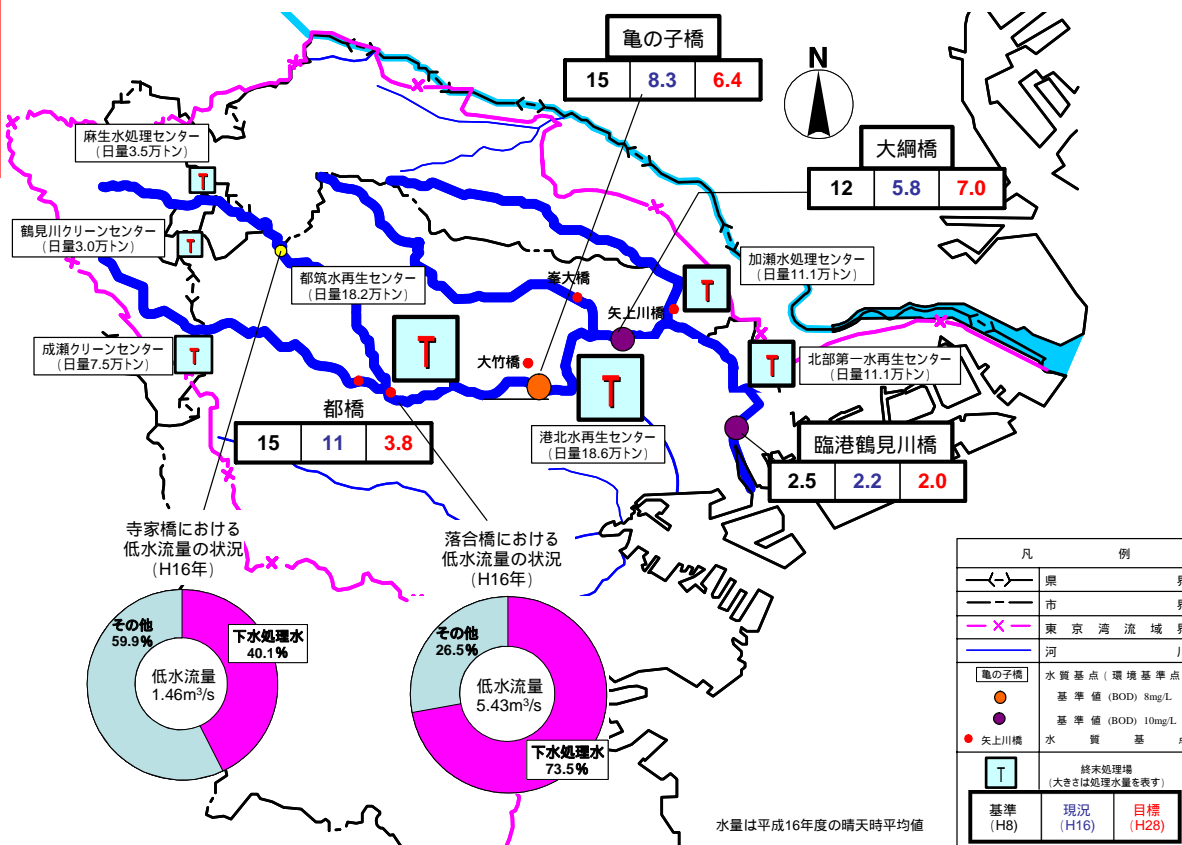
・河川管理者における取組や各下水道管理者の取組の状況、東京湾流総計画に基づく流域の目標水質について、情報共有。
 ・その上で、上記課題点に対する認識の共有、解決に向けた取組等を提案



当面の目標

- ・流域で連携した普及啓発活動の展開
- ・地域最適解から流域最適解の実現に向けた合意形成へ

下水道整備による鶴見川の目標水質(東京湾流総計画より)



鶴見川における下水道の取組の課題と対応

(関係者間で共有された課題)

課題1: 下水道の役割が理解されていない

- ・市民生活において、河川の存在は疎遠になっており、人と川をつなげる下水道の役割に対しても、関心は希薄
- ・特に、子供にとっては、下水道の整備により、鶴見川をはじめ、都市内河川の水質が劇的に向上してきた経過は実感できない

課題への対応

- ・下水道の役割のPRの際に、流域内の住民と下水道、河川のつながりを意識してもらうような工夫をしていく
(例: 横浜市ホームページ キッズページ)
- ・過去の河川の汚濁状況とその改善状況を実感できるようなPRに留意する



例: 横浜市環境創造局子供向けホームページ

子供が使った水が下水道を經由して処理され、川に流れていくことを、図を活用して説明



水は、海で蒸発(じょうはつ)して雲(くも)になり、そして雨(あめ)となります。ふった雨は、地下(ちか)にしみこんだり、川にあつまって、また、海にそそがれます。水は、自然(しぜん)の中で、めぐりめぐって、もとに戻り、これをくりかえします。このように、水は循環(じゆんかん)しています。

私たちは、こうした自然の循環の中から水を得(え)て生活(せいかつ)しています。そして、生活の中で水を使うと、よごれた水が出てしまいます。だから、使った水をきれいにして、海や川にもどす必要(ひつよう)があるんだね。

さて、きみたちが使った水はどこに行くのかな？
横浜市内の各小学校で使った水のゆくえがわかります。

[「水のゆくえ」をしらべるときは、
ここをクリックしてね](#)




鶴見川における下水道の取組の課題と対応

(関係者間で共有された課題)

課題2：下水道における市民の取組分野が少ない

- ・流域の水循環系構築について意識の高い市民にとっては、下水道の分野は、自分が自主的に取り組むことが出来る取組が少ないか、皆無。
- ・これまで、下水道管理者からは「ゴミや油を流さないようにしましょう」のような、下水道使用に当たっての注意点等の情報しか提供してこなかった。
- ・市民から使用料金を徴収して運営しているため、下水道管理者が市民に対し、さらなる何らかの取組を依頼することが言いにくい感覚がある。

課題への対応

- ・流域の水循環系構築について意識の高い市民に対して、「私たちに何が出来るか」という問いに対する答を出来るだけ準備して、情報発信に努める。
(例：東京都「油・断・快適」取組
下水道未来研究会「下水道LOHASの提案」)
- ・使用料金については、別途その用途等の情報提供に努める。

洗濯は晴れた日にするよう呼びかけるポスターと、何故雨の日の選択が川の汚染につながるかを合流式下水道との関係で説明(下水道未来研究会「下水道LOHASの提案」より)

下水道に油を流したときの影響を分かりやすく説明すると共に、家庭でできる対策を、身近な問題(ダイエット)と関連付けて提言した取組の例(東京都下水道局HPより)

合流式下水道のしくみと課題 (イメージ案)

Q 雨の日の洗濯は身近な河川の汚染につながるってホント？

家庭から出る排水は、下水道を使うことできれいな水に変えられ、川や海に戻っていきます。ところが、大都市圏などで多く見られる「合流式下水道」という方式では、雨の日には洗濯排水を含む排水が、汚れたまま河川等へ流れ出てしまうことがあります。

現在、河川等を汚染をすることのないよう、全国的に合流式下水道施設の改良が進められていますが、各家庭でできることとして雨の日には洗濯を控えることも大切な対策の一つです。

図. 合流式下水道のしくみ

晴れの日：家庭からの排水は全て下水処理場できれいに処理されます。よって、問題ありません。

雨の強く降った日
一部の排水が雨といっしょに川や海に流れてしまい、河川等を汚す原因の一つとなっています。

図. 雨の強く降った日の模式図(洗濯等の排水が河川へ流れ出る様子)

油汚れはふき取る

油は使い切る

油・断・快適！下水道

～下水道に油を流さないで！～

海までいっちゃうよ！

リサイクルする

吸い取る

東京都下水道局

少ない油でおいしい料理

からだにも下水道にもやさしい

ダイエットレシピ

今日から作ってみませんか!!

ちょっと待って!
その先は、海です。

あなたが使うほんの少しの油でもやがて冷えて固まって下水道を詰まらせます。そして大雨が降ると、川や海に流れ出てしまうことがあります。

****少ない油が健康と快適な生活環境を守ります****

鶴見川における下水道の取組の課題と対応

(関係者間で共有された課題)

課題3: 指標としての「水質」は、分かりにくい

- ・現在のBODなどに代表される水質指標は、市民にとって分かりにくいいため、「BODの改善」などの水質改善の目標を掲げても、河川の水質改善に対する市民の意識が高まらない



課題への対応

- ・河川の水質につき、現況、将来目標値に加え、かつて清流だった時期、汚濁が進行した時期の水質について分かりやすく示すと共に、下水道終末処理場からの放流水質、将来の高度処理実施時における放流水質と河川水質との関係についても、分かりやすく説明していく。

課題4: 主体が複数にわたることによる課題

- ・同じ鶴見川でも、河川管理者が国、県、市に分かれており、流域の取組についても、そこから個別に下水道管理者に伝達されるため、流域一体となった取組という感覚を、関係者間に生み出しにくい



課題への対応

- ・現状は、鶴見川の流域のイベントは「流域協議会」が主催となって行っているものが多い。このため、下水道管理者もこの取組に連携して参画するよう検討(H19年度は、活動計画に反映)
- ・流域を歩くイベントのルートに、下水道施設を組み込むことにより、下水道の役割の積極的PRを図る(最低限、トイレの共用などのサービス提供を進める)。

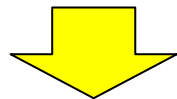
印旛沼における下水道の取り組みの課題

特徴・課題点

1. 地域住民と行政が一堂に会した計画の策定、両者による意見交換会の実施(わいわい会議)、新たな提案に対する両者の連携による施策の効果検証(みためし行動)等を通じて、印旛沼流域にとって最も望ましい水循環構築に向け、地域住民との連携による取り組みを進めている。
2. 地域住民等のうち、キーパーソンとなる方に計画段階から参画頂き、実践においても協力してもらうことにより、地域住民等との継続的な連携活動が可能となっている。
3. 一方、下水道の取組については、下水道の整備(汚水処理)及び接続の推進が計画に位置づけられているに過ぎない。また、下水道による雨水対策も位置づけられていない。この様に水循環系構築における下水道の役割が地域住民の目から見えにくいものとなっている。

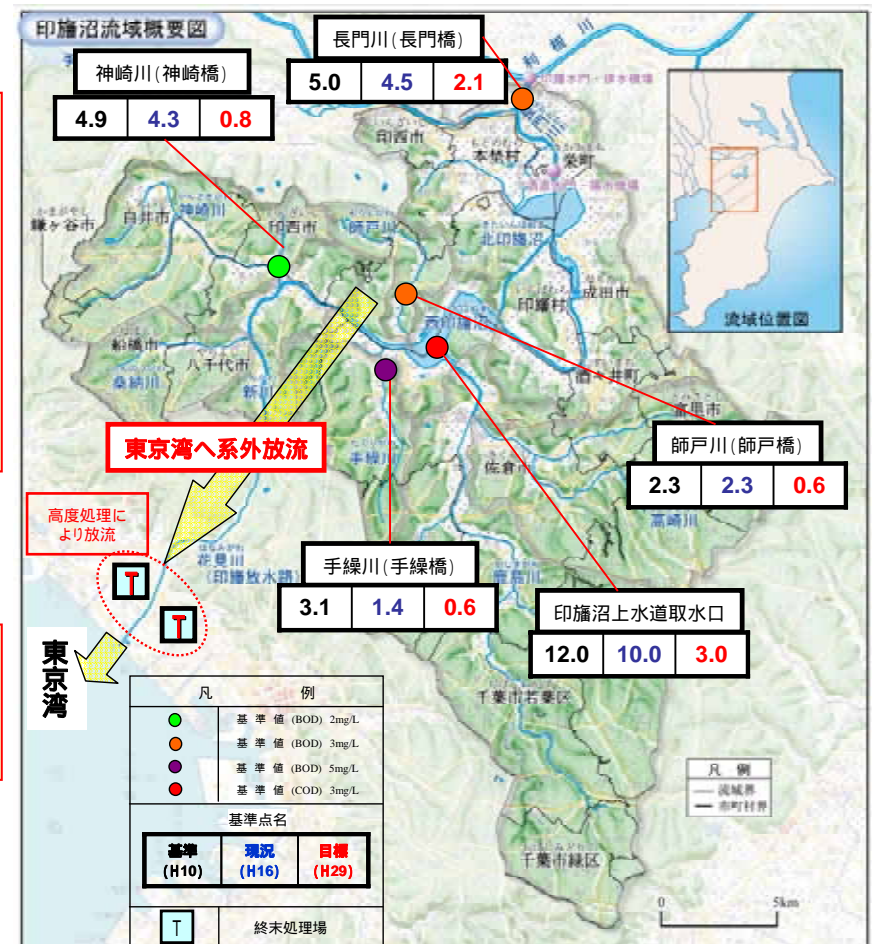
下水道に関する取組の第1ステップ

- ・河川管理者、下水道管理者、流総計画策定者、国(地方整備局(河川部、建政部))により情報を共有
各主体の印旛沼に関連する取組の状況、流域の目標水質(流総計画)等
- ・上記課題点に関する認識の確認。解決に向けた取組の提案等
- ・下水道部局から流域(行政、住民)に発信すべき情報の確認。



当面の目標

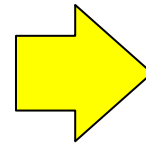
- ・印旛沼の水環境に与える下水道の効果の流域への普及啓発
- ・流域の取組(みためし行動等)のサポートのための情報発信



印旛沼流域における下水道の果たす役割

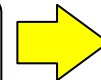
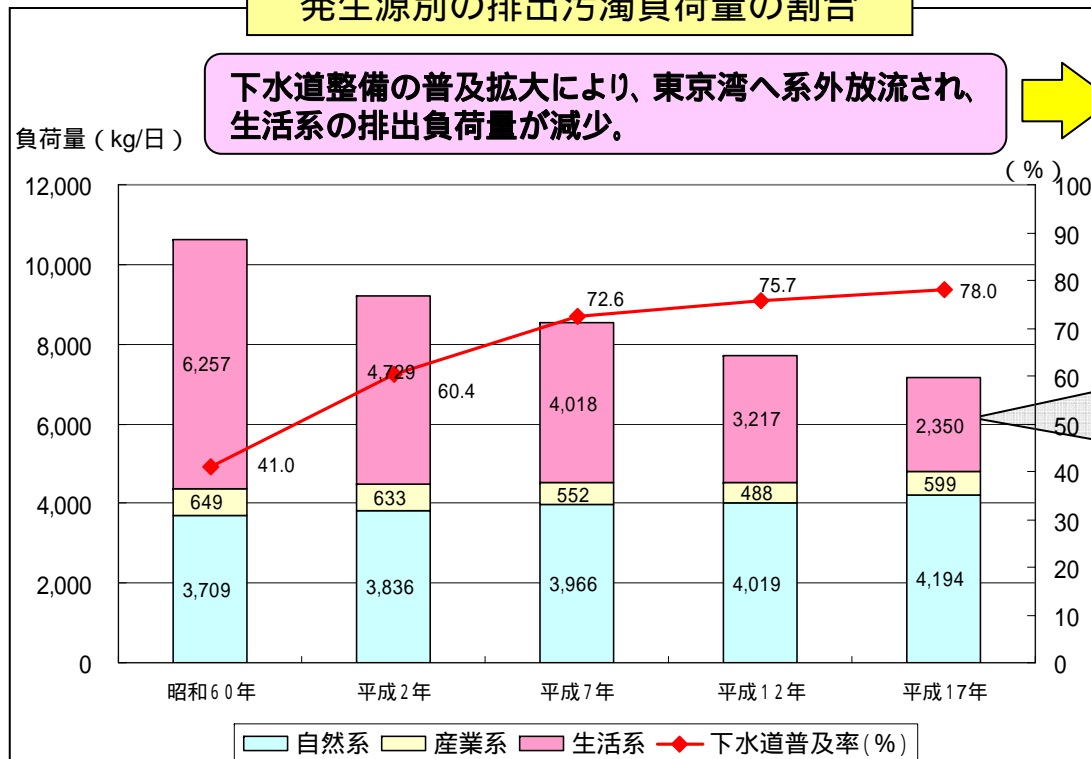
印旛沼の水質改善に対する下水道の効果を的確に流域関係者・住民に伝えるための情報の整理

- ・流入負荷量の減少に大きく寄与。
- ・今後は下水道の普及拡大とともに農地等からの汚濁負荷削減に努めることが必要。

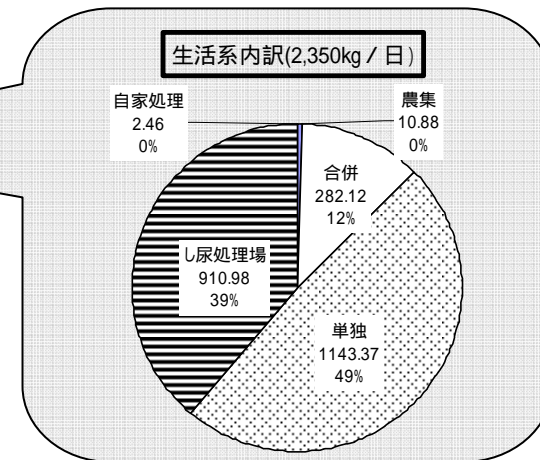


- ・下水道の広報ツールにこれらの情報を反映。
- ・「出張下水道教室」(千葉県下水道公社主催)でもPR。
- ・流域関連市町担当者への普及啓発

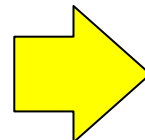
発生源別の排出汚濁負荷量の割合



排出負荷量とは別に、下水道による系外放流負荷量は約1,300(kg/日)あり、これは印旛沼の水質改善に大きく寄与。
(なお、印旛沼流域の2つの下水処理場では、東京湾の水環境に配慮し、高度処理を実施)



流域住民と連携して進められる施策の後押しとなる情報を下水道側から発信。
(例)雨水浸透ます(浸水対策として実施)の水質改善に対する効果をPR。



- ・流域関連の市町担当者への普及啓発。
- ・印旛沼流域水循環健全化会議等への情報発信。